

岩手県立中央病院の概況

岩手県立中央病院 院長
宮田 剛

はじめに

• 当院の問題意識

- 救急患者増加
- 認知症、譫妄、転倒転落等の増加
- 医療安全的課題の増加
- 書類等業務量増加
- 職員数の不足感
- 働き方改革
- 建屋の狭溢
 - S62移転後、職員数は倍増
- 設備・機器類の不足感

• 社会的背景

- 少子高齢化
 - 複合的疾患を持つ高齢者増加
 - 働き手の減少
 - 独居世帯の増加
- 人口減少と偏在化
- 医療の高度専門分化
- 求められる経営の効率化
- 新専門医制度導入
- 岩手医大の矢巾移転

一病院の各論的改善対策の積み重ねでは、解決し得ない課題



「医療の集約化と分散化」さらに「医療の在り方」などに議論が必要

岩手県立中央病院

DPC特定病院群

地域医療支援病院

地域がん診療拠点病院

病院機能評価 3rdG:Ver2.0取得

【平成31年4月の状況】

病床数 685床
 標榜診療科 28科
 職員数 1,289名 (うち正規職員数 914名)
 医師数 181名
 (正規120名、後期研修26名、初期研修34名、
 臨時1名)
 看護師数 640名 (うち正規 553名)
 医療クランク 51名

【平成30年度実績】

一日平均外来患者数	1,104.7人	(新患数 123.1人)
一日平均新入院患者数	44.3人	
平均在院日数	11.9日	
病床利用率	83.6%	
紹介率	67.9%	
(地域医療支援病院紹介率	73.3%)	
(// 逆紹介率	85.6%)	
一日平均救急患者数	57.8人	
一日平均救急車受入れ件数	20.3件	
全麻件数	4,092件	
手術件数	5,715件	
分娩件数	499件	
医業収支	+11億6千万円	



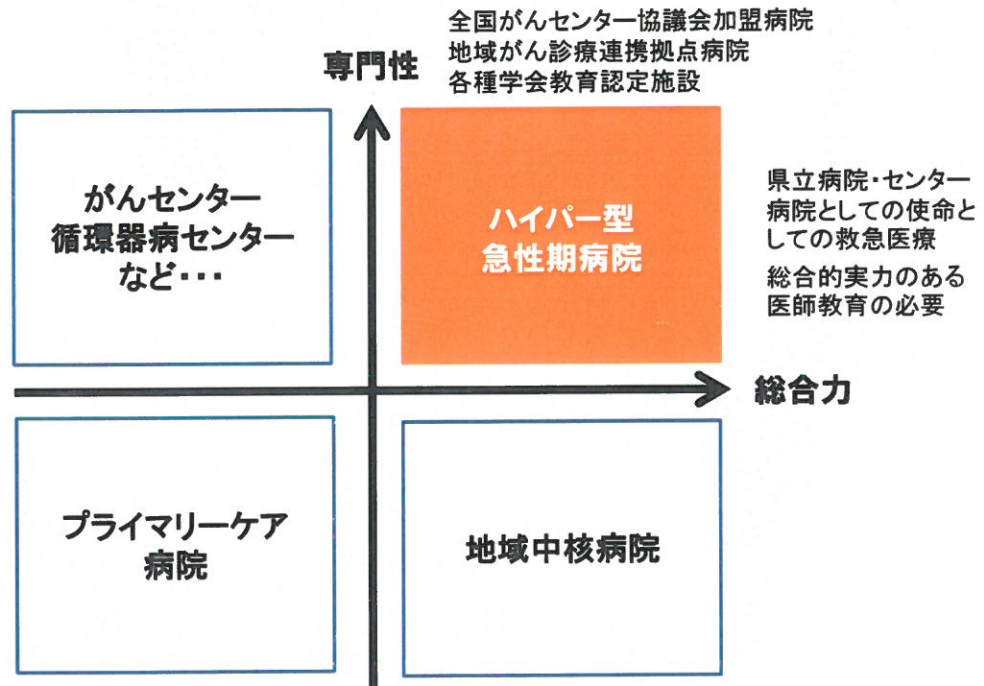
■基本理念

高度急性期医療を推進し、県民に信頼される病院

■行動指針

1. 良質な医療の提供
2. 次世代医療人の育成
3. 地域医療への貢献
4. 救急医療の充実
5. 災害医療の体制整備
6. 健全で効率的な病院運営
7. 魅力ある職場環境整備

当院の位置づけ



嶋田康之. 急性期病院二次医療圏別分析の可視化. 商大ビジネスレビュー. 3(1); 291-312, 2013.

プレジデント社「頼れる病院ランキング2018」 厚労省発表のDPCデータによる治療件数(東北分を抜粋)



乳癌手術

1 東北公済病院	461
2 岩手県立中央病院	276
3 公益財団法人星総合病院	207
4 山形県立中央病院	187
5 青森県立中央病院	184
6 東北大学病院	160
7 石巻赤十字病院	152
8 仙台市立病院	148
9 岩手医科大学附属病院	138
10 盛岡友愛病院	136

大腸癌手術

1 仙台オープン病院	216
2 岩手県立中央病院	214
3 山形県立中央病院	207
4 青森県立中央病院	205
5 岩手医科大学附属病院	199
6 仙台厚生病院	193
7 岩手県立中部病院	178
8 太田西ノ内病院	152
9 総合南東北病院	151
10 日本海総合病院	147

前立腺癌手術

1 山形県立中央病院	498
2 岩手医科大学附属病院	350
3 福島県立医科大学附属病院	318
4 大崎市民病院	311
5 岩手県立中央病院	265
6 岩手県立大船渡病院	256
7 仙台医療センター	244
8 弘前大学医学部附属病院	241
9 公立藤田総合病院	240
10 秋田大学医学部附属病院	230

胃癌手術

1 山形県立中央病院	151
2 仙台厚生病院	142
3 日本海総合病院	120
4 大崎市民病院	109
5 岩手県立中央病院	98
6 総合南東北病院	93
7 岩手県立中部病院	90
8 仙台オープン病院	90
9 岩手医科大学附属病院	86
10 青森県立中央病院	84

手術

肺癌 手術+薬物治療等

1 仙台厚生病院	1513
2 東北大学	911
3 青森県立中央病院	868
4 岩手県立中央病院	826
5 岩手医科大学附属病院	714
6 宮城県がんセンター	710
7 山形県立中央病院	673
8 山形大学医学部附属病院	562
9 八戸市立市民病院	479
10 福島県立医科大学附属病院	408

脳疾患 手術+血管内治療等

1 広南病院	308
2 仙台医療センター	190
3 総合南東北病院	164
4 岩手県立中央病院	123
5 岩手医科大学附属病院	121
6 弘前大学医学部附属病院	109
7 秋田県立脳血管研究センター	102
8 青森県立中央病院	100
9 八戸赤十字病院	98
10 八戸市立市民病院	91

心臓病 外科手術

1 仙台厚生病院	271
2 岩手医科大学附属病院	253
3 岩手県立中央病院	151
4 東北大学病院	138
5 弘前大学附属病院	104
6 青森県立中央病院	99
7 日本海総合病院	96
8 山形県立中央病院	95
9 磐城共立病院	91
10 福島県立医科大学附属病院	79

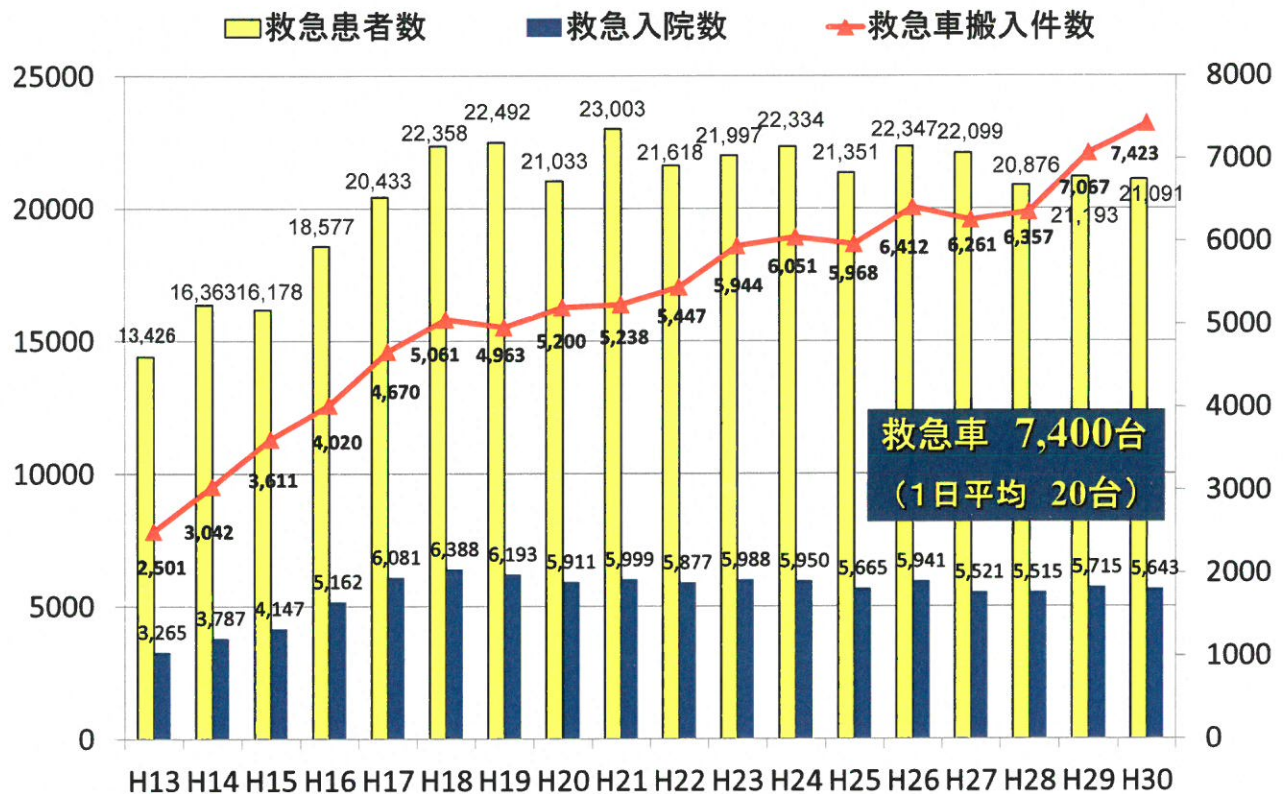
心臓病 カテーテル治療

1 仙台厚生病院	1514
2 岩手医科大学附属病院	760
3 弘前大学医学部附属病院	732
4 磐城共立病院	708
5 太田西ノ内病院	592
6 岩手県立中央病院	589
7 東北大学病院	486
8 山形大学医学部附属病院	459
9 星総合病院	458
10 仙台市立病院	403

※ 特化した専門病院や大学病院と肩を並べる当院の治療件数

救 急 医 療

当直医7名体制（＋ ICU、小児輪番）



救急搬送受入不能状況一覧

平成21年4月 ～ 平成31年3月31日現在

分 類	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
3次救急対応が望ましい患者	5	3	5	5	0	4	1	0	8	24
救急患者が多く対応できない	2	2	10	10	5	6	2	3	20	55
対応科が手術で対応できない	0	2	3	1	1	3	1	1	11	7
精神科疾患で対応できない	4	1	1	1	2	0	0	1	0	0
形成外科的処置が必要	1	2	0	1	2	1	0	1	0	1
その他	4	13	11	11	2	6	2	7	7	7
総 計	16	23	30	29	12	20	6	13	46	94

救急車受け入れ台数(年間)	5,238	5,447	5,944	6,051	5,968	6,412	6,261	6,357	7,055	7,423
対救急車受入台数比	0.3%	0.4%	0.5%	0.5%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%	0.7%	1.3%

ヘリポート運用状況

令和元年5月20日(月)に開所式を行い、
翌21日(火)より運用を開始。



※件数は“現場救急”のみ（転院搬送数は含めていないもの）
※H30年以前実績は、盛岡東警察署等のヘリポート使用実績分

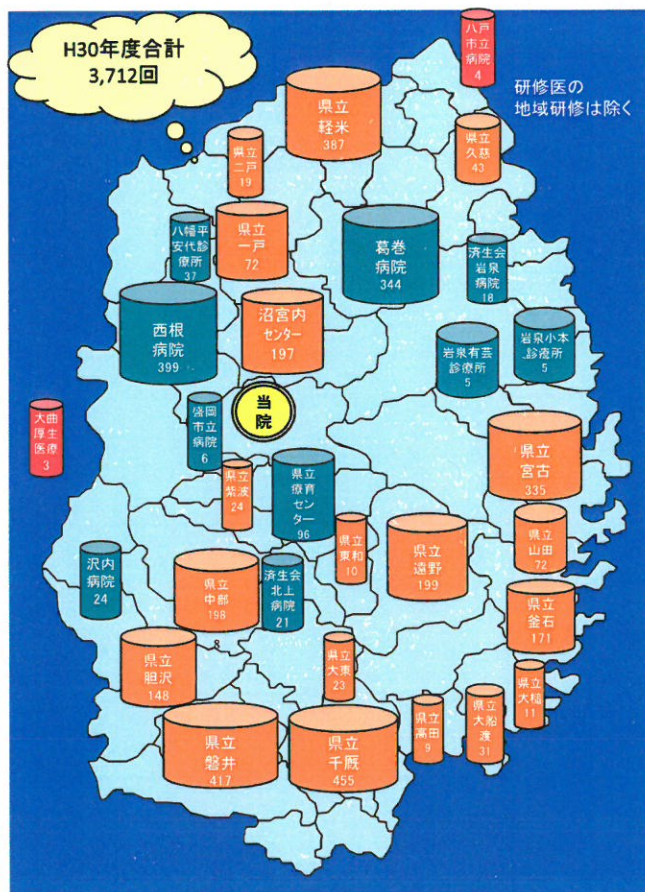
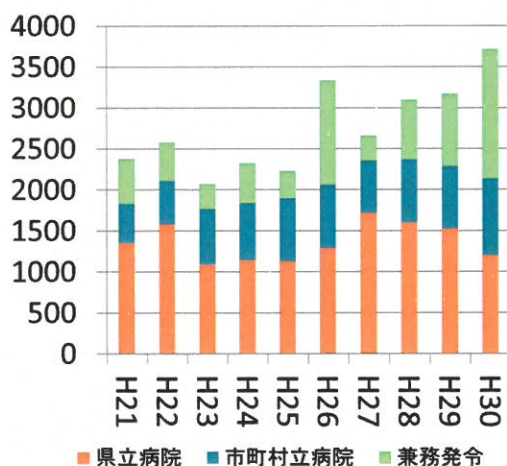
運用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	1	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	7
H28	1	2	0	0	0	3	1	2	1	0	0	1	11
H29	1	0	1	2	1	2	0	0	0	0	0	2	9
H30	0	2	2	0	1	0	1	2	2	0	0	0	10
H31 (R1)	1	0	1	2	5	5	1	1	1				17

岩手県立中央病院の診療応援
(平成30年度)

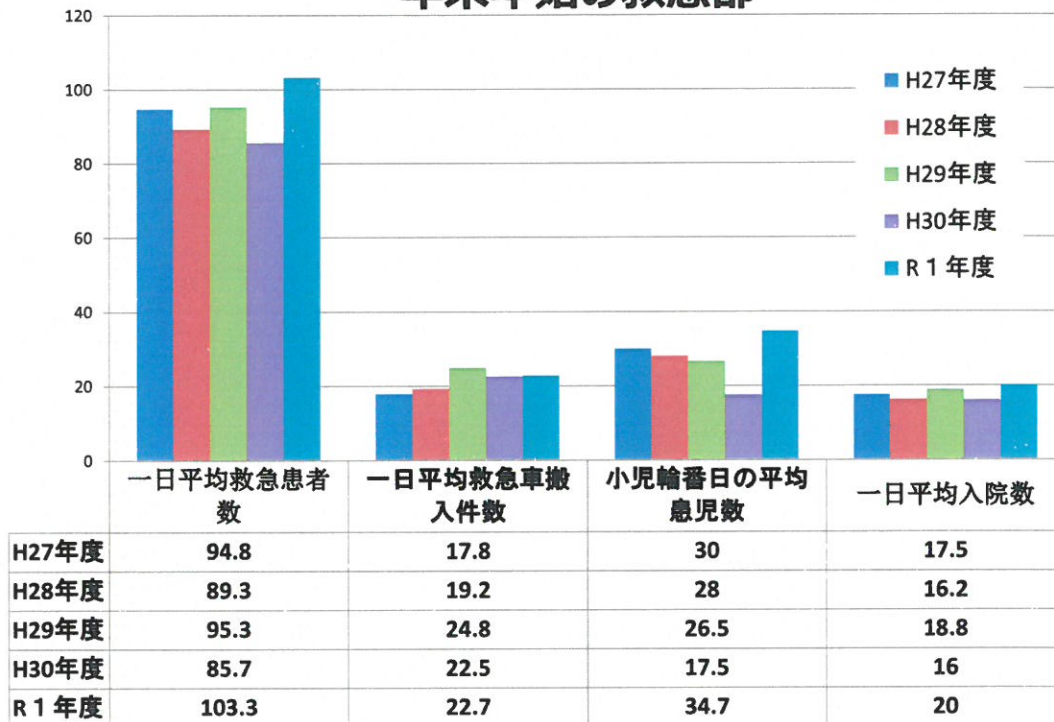
一日平均約10人の医師が不在になる。

年度推移



岩手医大移転の影響

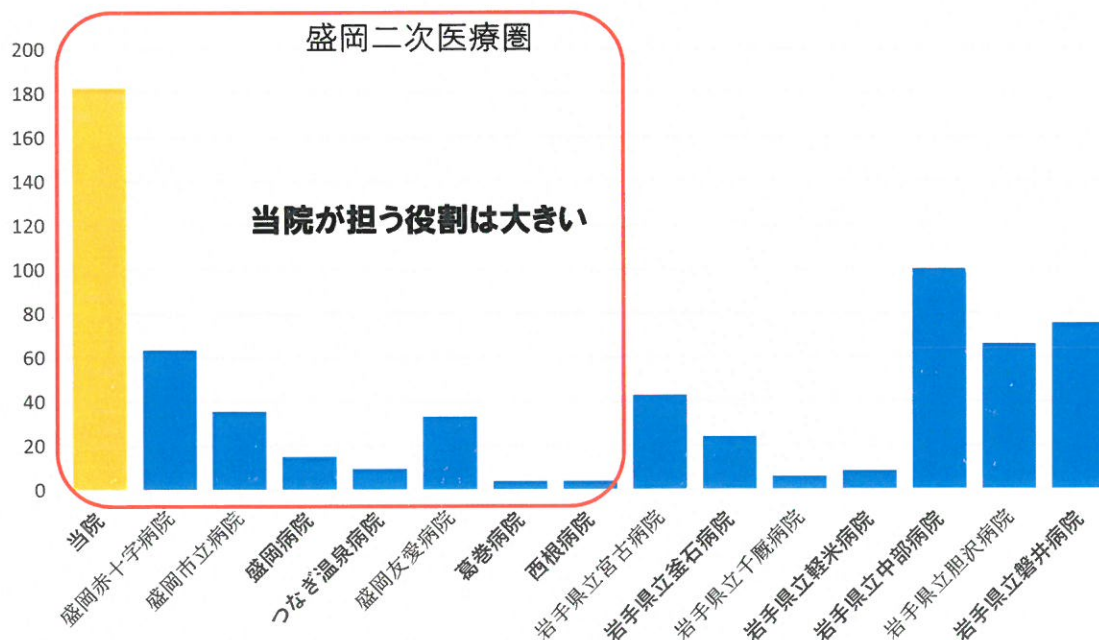
年末年始の救急部



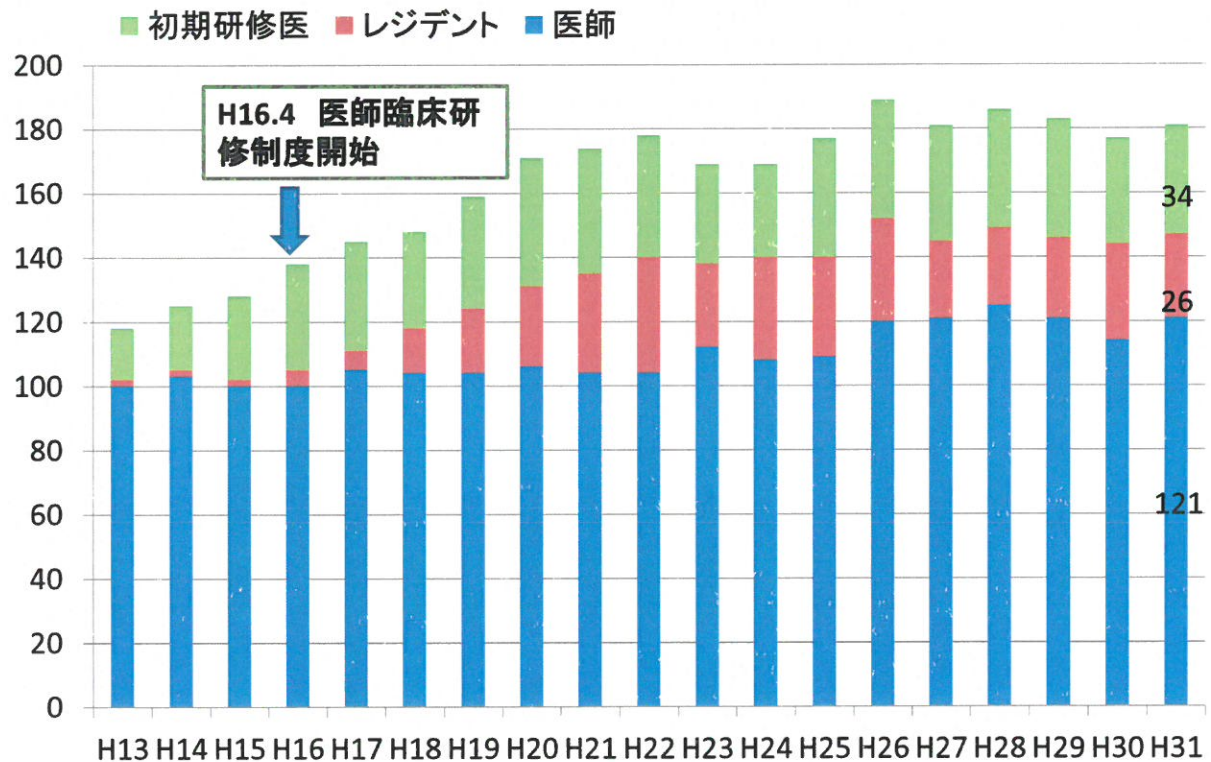
→ 救急以外の通常外来患者数推移等は別紙資料をご覧ください

近隣病院医師数の比較

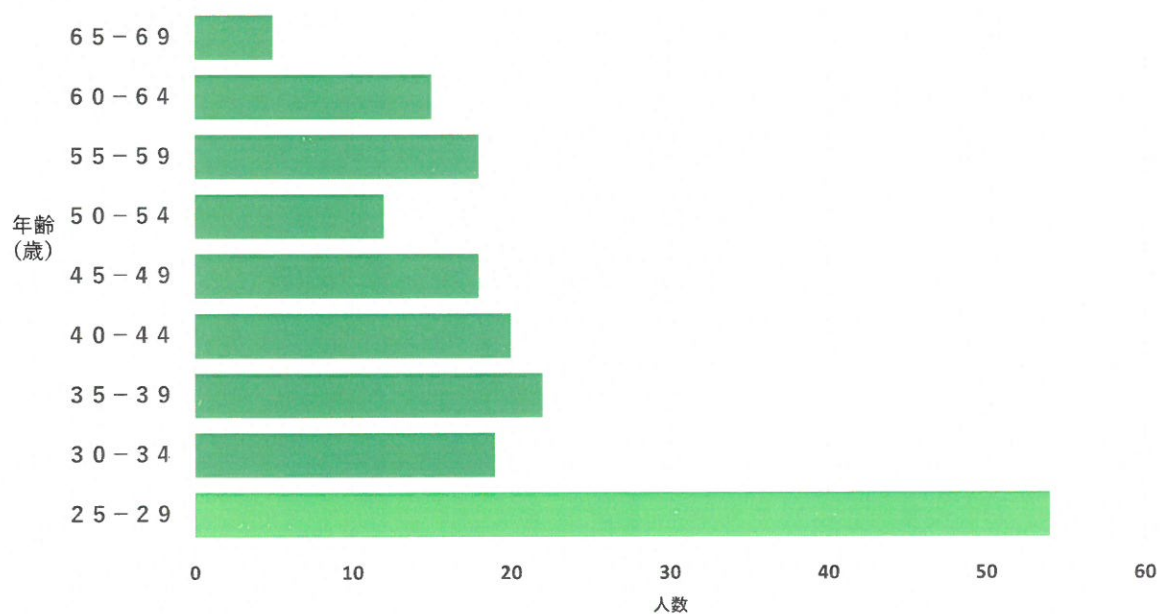
病院情報局(最新分:H29実績)より

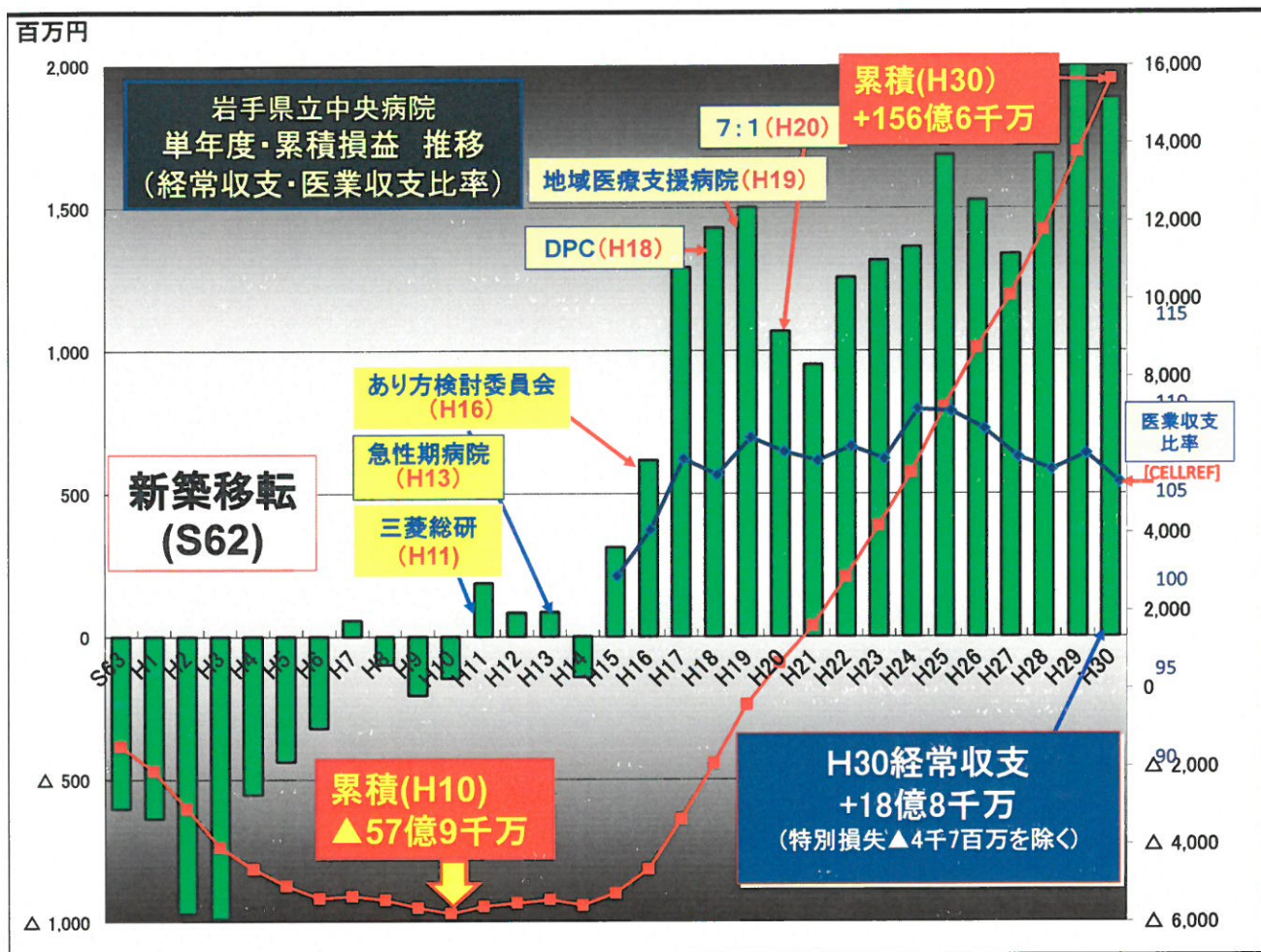


岩手県立中央病院 医師数の推移



中央病院 年代別医師数分布 (2018)





地方公営企業年鑑より抜粋 (H29年度版)

	病床数	医業収支比率	看護師数 (正規)	100床当たりの看護 師数	救急受診患 者数	救急車受入 件数
大垣市民病院	857	105.9	774	100.4		
岩手県立中央病院	685	102.5	579	86.9	21091	7400
富山県立中央病院	665	99	701	95.6		
石川県立中央病院	628	98.6	640	111.9		
愛媛県立中央病院	824	96.6	835	117.3		
青森県立中央病院	679	92.3	662	114	13568	3176
山形県立中央病院	658	92.1	664	112.8	16749	3501

当院腎臓内科、長年の念願でありました
生体腎移植を始めました
第一例目は2019年12月5日
家族の思いも汲んで、透析生活からの解放を実現する医療

当院腎臓内科を中心に、
泌尿器科、消化器外科の合同で行っています

協力：
岩手医科大学泌尿器科
東北大学総合外科
名古屋第二赤十字病院
JCHO仙台病院

現状の課題（業務負荷増大）解決を目指した 7つのプロジェクト（2018）

意欲も実力もある医師を育成し、
当地の医療を守る**安定的医師確保プロジェクト**

1

総合診療・救急医療プロジェクト

「それはうちじゃない」を禁句とする
generalist mind育成プロジェクト

2

業務簡素化（効率化）プロジェクト

楽（らく）して最大限の成果を得る
仕事の仕方プロジェクト

3

盛岡医療圏全体を「ひとつの病院」と考えられるくらいに
強力な地域連携構築するプロジェクト

4

情報発信・受信プロジェクト

当院の魅力と問題点を深く知り、
周囲に対しても良い部分をきちんとアピールするプロジェクト

5

やる気の起きる臨床指標創出プロジェクト

日々の業務にやる気が出るような
指標はなにか、やりがいを持って
仕事をするためのプロジェクト

6

未来の中央病院構想プロジェクト

ハードもソフトも含めて将来「こんな
病院を作るべき」、「こんな病院は
作るべきでない」を明確化していくプロジェクト

7

「本気でハラスメント対策」プロジェクト（2019）

※ 生命に直結する医療を担う現場スタッフは、緊張を強いられる場面も多い。またプロ意識の強い専門家集団が共存するのが病院であり、いわゆるパワハラが生じやすい土壌もある。しかし、忙しく厳しさの求められる現場だからこそ人間関係のストレスを減じ、安心して働き、また働き甲斐のある職場を作る必要があるため、以下の対策を構築する。

発信：



病院長からのハラスメント根絶に向けた宣言

→ プロジェクトリーダーの任命：大浦裕之 医療安全管理部長

職員に向けた研修会

関連情報発信（院長通信、院内広報GUTS等）

受信と拾い上げ：

ハラスメントサーベイランス

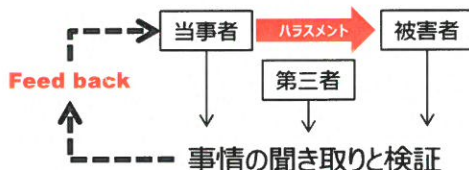
- ・年に1回のハラスメントアンケート
- ・各部署単位での定期サーベイランス



事例対応：



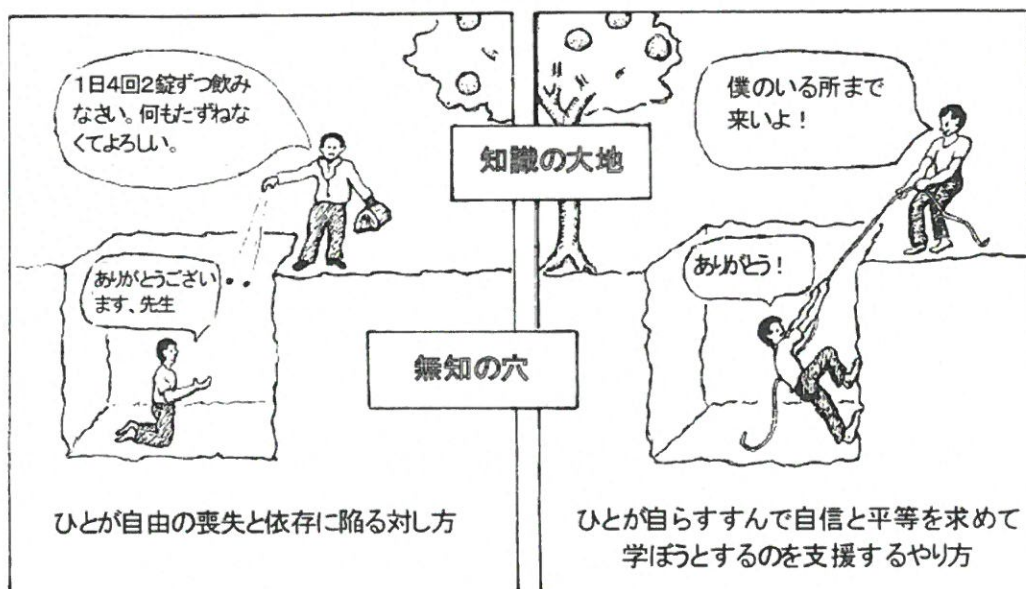
相談窓口の設置、事例発覚時の対応



“Where there is no doctor”

David Werner（色川哲郎 訳）

健康管理への二つの道





2007年 夕張市は財政破綻！
171床の夕張市立総合病院が消え
19床の診療所になった
市内にCTやMRIが一台もなくなった

↓

夕張市民の健康は危機？

↓

否

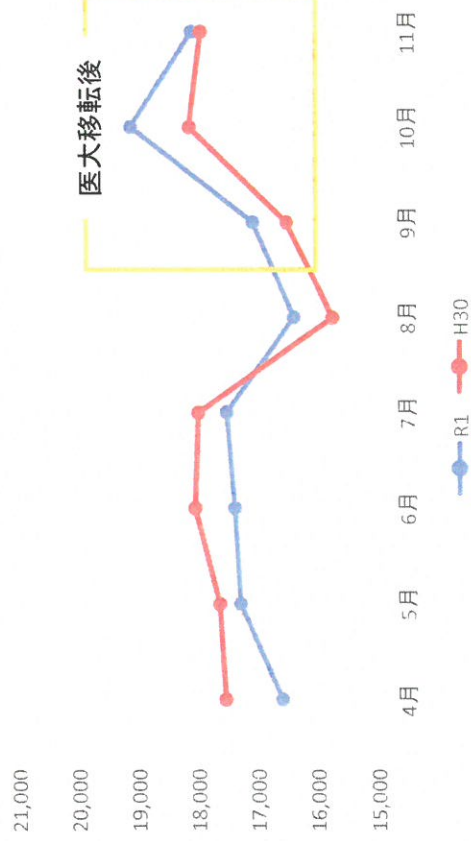
↓

市民の自己健康管理意識が高まり、救急車搬送件数は減少し、医療費は減少した

岩手県立中央病院 課題

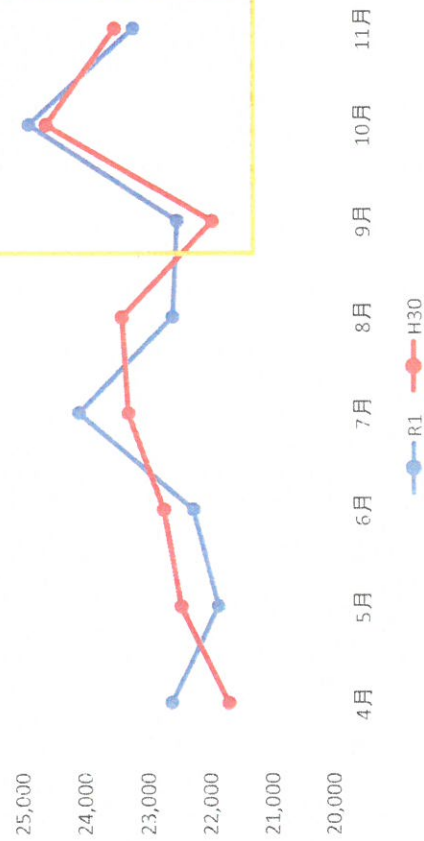
- 集中する患者数に対しては、近隣医療機関との連携をさらに強化し、高度急性期病院としての機能をより特化していく必要があると考えています
- 患者集中による不満足増幅の悪循環、ポリファーマシー等の問題は、「医療の在り方」を医療者側、住民側の双方が見直すべき時期と感じており、なんらかの対策が必要です
- 少子高齢化、人口減少の先端を行く岩手県としては、むしろモデルケースとして世界に発信していくチャンスでもあります。このためにはまず、住民との危機感共有が必要であり、また夢のある将来構想が必要と思います

【入院】延患者数



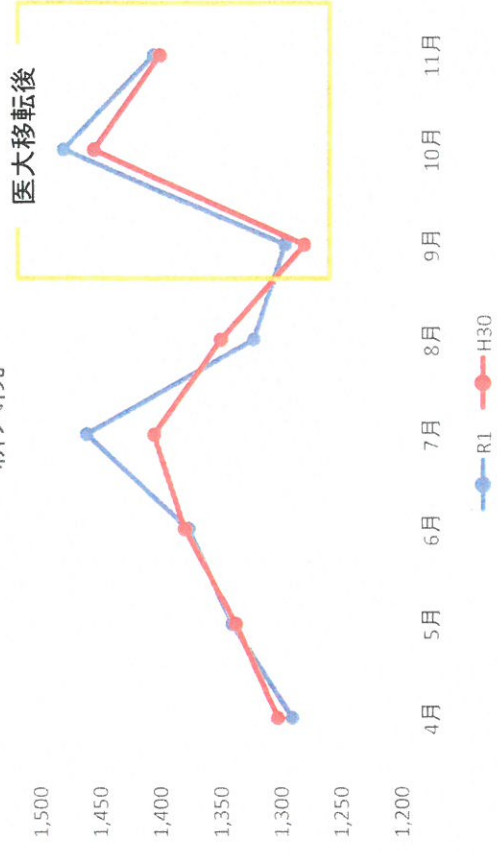
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
R1	16,580	17,279	17,374	17,507	16,374	17,068	19,093	18,088
H30	17,529	17,630	18,038	17,978	15,727	16,495	18,125	17,932

【外来】延患者数



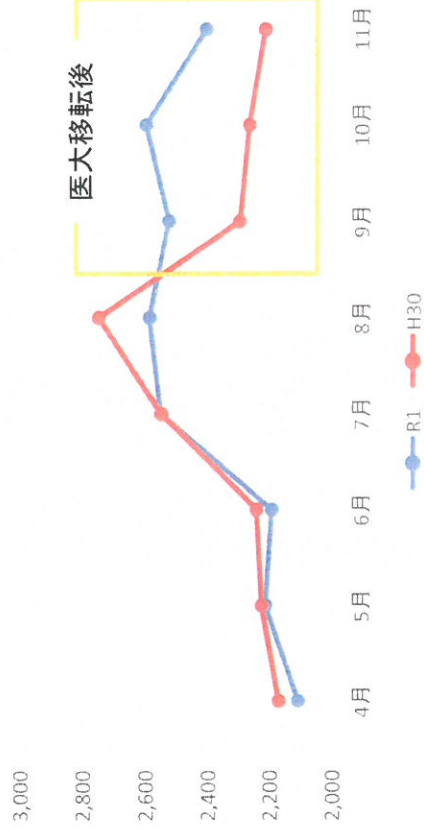
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
R1	22,595	21,847	22,245	24,068	22,572	22,505	24,874	23,202
H30	21,674	22,439	22,717	23,275	23,380	21,942	24,591	23,497

新入院



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
R1	1,290	1,340	1,376	1,460	1,322	1,296	1,479	1,404
H30	1,302	1,337	1,379	1,404	1,349	1,280	1,454	1,399

新患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
R1	2,105	2,210	2,190	2,547	2,583	2,521	2,593	2,402
H30	2,167	2,222	2,238	2,545	2,744	2,294	2,262	2,209